

事前評価報告書（実行団体用）

事業名： ひろしま農業型自立支援プログラム～生きづらさを抱える若者の多様な「働くこと」「暮らすこと」を支える事業

実行団体： NPO法人ブエンカミーノ

資金分配団体： NPO法人ひろしまNPOセンター

実施時期： 2021年8月～10月

対象地域： 全国

直接的対象グループ： 就労適齢期でありながら長期無職や不安定な就労状態にあり、社会に居場所を感じられず孤立に苦しんでいる若者（概ね15歳～39歳）

間接的対象グループ： 【間接的当事者】当事者家族若年無業者予備軍である、「働くこと」「暮らすこと」に悩んでいる若者全般【支援パートナー】役所、医療福祉関係者、地域若者サポートステーション、ひきこもり相談センターなどの相談支援機関活動地域の住民 農家・企業

I.概要

事業概要	共同生活および就労体験（農業）を通じて若者たちの自立を目指す事業。事業全体を航海に見立て、その港であるブエンカミーノの組織基盤強化（広報力、設備整備 等）と、より多くのステークホルダーが関わり若者の航海を支える環境づくり、若者を支え励ます体制づくりを実施する。
中長期アウトカム	若者たちの自立を航海に例えるならば、当団体は「港」として彼らの船出や旅路を支えることが可能となっている。まずはいつでも安心して立ち寄れる港とし整備され、若者たちがそこで一息つきながらこころを整えることができる。そして支援者と共に働くことを通じて航海に必要な社会的スキルやライフスタイルモデルを獲得し、そこから新たな航海へと旅立つ。このモデルが構築され、安定して運営されている。
短期アウトカム	①関わった若者の、こころの状態が整っている 団体の存在を知り、安心して過ごせる居場所を獲得し、自己肯定感、自立への動機づけが強化され、チャレンジのスタート地点に立つことが出来た。 ②長期プログラムに参加した若者が、船出を達成した 実労働を通じて、目指すライフスタイルの方向性が定まり、その目的達成のために必要な社会的スキルを身に付け、希望をもって就職や進学を達成した。 ③関わった若者が、航海にチャレンジし続けている 仲間や支援者と関係性を続けながら航海を続けている。

事業の背景

(1) 社会課題	就労適齢期でありながら長期無職や不安定な就労状態にあり、社会に居場所のない若者が数多くいます。中には、軽度の障がい、家庭環境、元不登校やひきこもりなど、ただでさえ生きづらさを抱えている若者も少なくありません。若者たちが何の手助けもなしに、この社会という大海原にて自立を叶えることは大変困難な時代であるといえます。専門的な支援機関に繋がることなく、家族を巻き込み、精神的・経済的に困難な状態にある人たちが数多くいます。
(2) 課題に対する行政等による既存の取組み状況	*2005年厚労省委託による合宿型の若者自立支援「若者自立塾」が全国で始動するも、成果主義による事業仕分けにより2010年に助成打ち切り。以降は現在に至るまで、民間団体による草の根的な実践に頼っており、全国的にその数は少ない。 *現在、厚労省委託「地域若者サポートステーション」が全国に177か所。他、「青少年相談センター」「ユースプラザ」「ヤングハローワーク」などが、若者のメンタルヘルスや就労の相談などを受付けている。しかしどれもが通所型であり、相談支援もしくは居場所支援（フリースペース事業）に終始する性質のものである。 *現在、唯一横浜市では、行政主導である合宿型の若者自立支援「よこはま型若者自立塾JOBキャンプ」を行っている。

評価実施体制

	評価担当分野	役職
内部	全般	特定非営利活動法人ブエンカミーノ 代表
	全般	特定非営利活動法人ブエンカミーノ 事務局長
外部	全般	松岡コンサルティングオフィス 代表 公認心理士・臨床心理士・産業カウンセラー
	全般	京都市児童福祉センター診療所担当係長 精神科医師
	全般	NPO法人KULA Mauki 代表 臨床心理士
	全般	NPO法人グッド 専従職員

評価実施概要

評価実施概要	①10/22 21時～ 参加者：吉川、金、松岡、前田、前田 ②12/8 15時～ 参加者：吉川、金、村瀬 両回ともに、zoomにて、団体側より事業計画における概要をロジックチャートや事業計画書を資料に用いながら説明した。その後質疑応答、意見交換がなされた。最後にアンケート記入を依頼して終了した。
自己評価の総括	参加者の全員が、心理領域および、青少年の育成支援に関わっている専門職であったことから、比較的スムーズに当団体の目的とする事業計画について理解と賛同が得られた。それぞれの立場ならではの意見を得ることもでき有意義な評価実施であった。

事前評価報告書（実行団体用）

評価結果の要約

評価要素	評価項目	考察（妥当性）	考察（まとめ）
課題の分析	①特定された課題の妥当性	高い	最高点を5とするアンケート結果の平均値4.75。これまでの活動経験から、当課題における問題構造はよく理解されており、その課題設定は適切であるといえる。
	②特定された事業対象の妥当性	概ね高い	最高点を5とするアンケート結果の平均値4.25。これまでの活動経験からよく対象グループを理解できていると考えられるが、一方で重症度の幅が広く、それらをカバーするためには相当のハード面や人的資源の豊富さが求められるという指摘があった。
事業設計の分析	③事業設計の妥当性	概ね高い	最高点を5とするアンケート結果の平均値4。対象グループとその課題、問題構造がよく把握されており、それらの解決に向けての事業設計は結果に期待の持てる内容となっている。
	④事業計画の妥当性	概ね高い	最高点を5とするアンケート結果の平均値4.25。概ね実現可能であると考えられるが、さらには、対象者の重症度に応じて、短期で気軽に参加できるプログラムがより明確に設定されるとよいという意見があった。

事業計画の確認

重要性（評価の5原則）について

本事業は、生きづらさを抱える若者が、自分らしく「働き」「暮らす」ために挑戦し続けられる環境と機会を得ることを目的としており、そのためには、当団体がいつでも立ち寄り相談できる「港」として機能し、ひいては対象者が当プログラムを終了後、どのような頻度と状態で当団体に関わり続け変化していくかを検証することが評価において特に重要であると関係者間（吉川、金、松岡、前田、前田、村瀬）で合意された。

今後の事業にむけて

事業実施における留意点

- * 新型コロナウイルスの影響によって参加者自身がまだ自粛モードであること。実施方法もウィズコロナの視点で。短期キャンプやイベント時などでは、地域など各方面への配慮が必要。
- * 説明会などの場においても参加費がネックになることが依然多いこと。何らかの制度を利用して利用料の負担を減らすことが可能かどうか。

添付資料

別添1：事業計画書※修正された場合のみ添付 修正された場合にはその理由等も記す

別添2：評価計画書

別添3：事業実施スケジュール(評価項目「④事業計画の妥当性」が検討された結果として、必要に応じてスケジュールを作成添付ください)

別添4：ロジックモデル/セオリーオブチェンジなど（作成された場合のみ添付。必要の有無は資金分配団体の指示に基づきます。）

別添5：調査データ等(適宜)